



松戸市教育委員会

教育長 伊藤 純一

「教育はみんなで」

日本の恵まれた四季は自然の表れの一つですが、今年も私たちにその豊かさを手渡してくれています。しかしながら、一方でその自然は、私たちヒトが作り上げてきた文化を脅かしています。昨年には台風等の災害があり、昨年度末からは、新型コロナウイルス感染症対策で、慌ただしいどころか毎日の対応に追われる状況となっています。

このような時こそ地域共生の意識を強く持ち、感染の拡大を防ぐため、あるいは感染された方々が治癒されるまで温かく見守るために、普段からの地域コミュニティや人と人の温かなつながりを大切にし、深めたいと願っているところです。

感染症対策の一つとして休校措置を取ったことで、学校が社会の中で実に幅広く、多様な役割を担ってきたこと、特に福祉的な役割の多さを改めて認識しました。そしてまた、社会教育施設が市民の皆さんにとって大切な位置を占めていることも、再確認できました。教育行政が昭和、平成、令和と続く中で、社会の重要な役割を担ってきているのだという、自覚と責任を強く感じているところです。

さて、社会は、AIやシンギュラリティそしてSociety5.0等のキーワードが示すように、利便性、合理性を追求し、そのスピード、集積度を競う方向に進み、私たちに大きな変革を求めています。令和2年度に向けた教育施策方針において、学力向上を目指した「授業の在り方」の更なる変革、貧困・虐待・引きこもり・不登校・いじめ問題等の課題についての他部門との連携、ことばの教育特にフォニックスやTESOL等の「言語活用科」の推進、図書館や21世紀の森と広場・森のホール21・博物館そして運動公園の整備などの知の拠点・文化の拠点・スポーツの拠点づくり、「まつどっ子 未来のために今」による幼児・家庭教育の活性化、さらには2030年に向けての「まなびの松戸」プランの構築など、総じて「想定不能な将来に向けてのSafety Net」づくりの話をさせていただきました。

「時」は冷静に刻まれ、そしてまた冷静に新しい「時」が生まれてきます。その新しい「時」に生きる若者たちに、私たちはこれからの「生きる力」を授けなければなりません。私たち市民の役割は、未来に生きる子どもたちを育てること、つまりはその子どもたちが創る未来の基礎を創ることです。

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策が行政の大きな柱とならざるを得ない中で、大事なヒトとヒトのつながりの根本に働きかけることのできる部署は、教育行政だと自負しています。「教育はみんなで」を皆さんと共有し、生涯学習、学校教育の施策展開を進めていきます。宜しくお願ひします。

伊藤 純一